

| | | | | | |
|--------|---|-------|-----------------|----------|--|
| 授業科目名 | 成 育 看 護 実 習 | | | 担当教員 | 大重 育美、永松 美雪、 石山 さゆり、松中 枝理子、 中村 美佳、園田 希 |
| 開講年次 | 3年後期 | セメスター | 6 | 時間数(単位数) | 135 (3) |
| 必修選択 | 必修 | 授業形態 | 実習 | 使用教室 | |
| 授業の目的 | リプロダクションサイクルにある人々の健康と次代を担う子どもが健やかに育つための看護を提供できる能力を獲得する。 | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) リプロダクションサイクルにある対象者（周産期・小児期における母子およびその家族）を、成長発達過程連続的に身体的、心理・社会的存在として説明できる。 2) リプロダクションサイクルにおける対象者の健康状態を、身体的、心理・社会的特性をふまえて明確にし、健康の保持増進と発達を促すような看護を展開できる。 3) リプロダクションサイクルにある対象者の人権を尊重し、倫理的態度で関わるができる。 4) 看護と保健医療・福祉・教育などの関連諸機関との連携について説明できる。 5) 自己を内省し、主体的・積極的に実習に取り組むことで、リプロダクションサイクルにある対象者と援助的人間関係を構築できる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 回 | 授業内容 | 授業方法 | 学修課題 (予習・復習) | 取組時間 | 担当者 |
| | <p>I. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 3週間 2. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性：福岡赤十字病院、熊本赤十字病院、総合病院山口赤十字病院 2) 小児：福岡赤十字病院、熊本赤十字病院、福岡市立こども病院、福岡東医療センター 3) 成育：学内および宗像市内の保育園または幼稚園 3. 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> [1] 母性看護実習（1週間）：周産期の母子と家族を対象とした実習 産婦人科病棟にて、受け持ち対象者に対する看護過程の展開を行う。 [2] 小児看護実習（1週間）：健康問題をもって入院する子どもと家族を対象とした実習 小児科病棟にて、受け持ち対象者に対する看護過程の展開を行う。 [3] 成育実習（1週間）：保育園または幼稚園実習 地域で生活する乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴を理解し、乳幼児期の子どもと援助的人間関係を築くためのコミュニケーション能力を獲得する。 <p>II. 実習上の留意点 対象の特性から感染防止には特に注意しなければならない。学生自身が感染媒介となることを防止するために体調不良時には必ず医療機関を受診する。</p> | | | | 大重 永松 石山 松中 中村 園田 |
| 先行履修科目 | 3年前期に開設する全ての必修科目 | | | | |
| テキスト | 上記科目で使用したテキスト・配布資料 | | | | |
| 参考文献 | 佐世正勝他 編：ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 第3版. 医学書院, 2016. 横尾京子他 編：ナーシング・グラフィカ母性看護学 母性看護技術. メディカ出版, 2016. 石黒彩子 編：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第2版. 医学書院, 2012. 山元恵子 編：写真でわかる小児看護技術 第3版. インターメディカ, 2015. | | | | |

| | | | | | |
|---------------|--|-------|---------|-------|--------------|
| メッセージ | <p>成育看護実習は母性看護学と小児看護学の2領域の実習にて構成されています。本科目の病棟実習はそれぞれ1週間であり、その1週間の中で受け持ち対象者の看護展開を行う必要があります。それまでの実習と比べると戸惑いを覚えるかもしれませんが、実際には、成育看護の対象となる人々の状態変化は著しく、入院期間も短いことが一般的です。したがって、その看護展開には十分な準備と予測的視点を持って臨むことが求められます。担当教員としては、短期間の病棟実習を効果的かつ有意義に取り組むことができるように事前課題等の工夫を行っていきます。とくに母性看護Ⅱと小児看護Ⅱは実習を想定した授業内容になっており、母性看護Ⅱと小児看護Ⅱで学んだ知識を総動員して実習に臨んでほしいと思います。</p> | | | | |
| 科目の位置づけ | <p>本科目は、レベルⅣ実習として位置づけられた実習科目である。レベルⅢ実習までに身につけた知識や技術を前提として取り組むことが求められる。母性（妊産褥婦と新生児）および小児という特徴ある対象者への看護を通して、リプロダクションサイクルにある人々の健康や子どもの成長発達を支える看護について学ぶ実習として位置づけられている。また本科目は、2年後期の母性看護Ⅰと小児看護Ⅰ、3年前期の母性看護Ⅱと小児看護Ⅱとは密接に関連している。</p> | | | | |
| ディプロマポリシーとの関連 | 人間の尊厳と権利を擁護する力 | 自己教育力 | チームで働く力 | 問題解決力 | 看護の専門性を探究する力 |
| 評価方法 | <p>○ ○ ○ ◎ ○</p> <p>① 母性病棟実習評価 40% ② 小児病棟実習評価 40% ③ 成育実習評価（保育園・幼稚園実習記録 10%・参加度 10%） 20%</p> <p>①の病棟実習評価は、母性実習評価（40点満点に換算）と小児実習評価（40点満点に換算）の合計値となる。また、この成育看護実習は2領域の実習にて構成されていることから、本実習の単位取得には母性看護実習および小児看護実習それぞれの合格基準を満たす必要がある。したがって、一方の病棟実習が合格基準を満たせない場合には、成育看護実習としての単位を取得できないことになる。</p> | | | | |